

研究テーマ 少数集団の紛争処理制度の研究

所属 学術研究部教育研究推進系

准教授 吉井千周

<https://researchmap.jp/senshu>



研究分野	法社会学
キーワード	モン族、女性、法社会学、人権

研究室URL <http://www.senshu.asia>



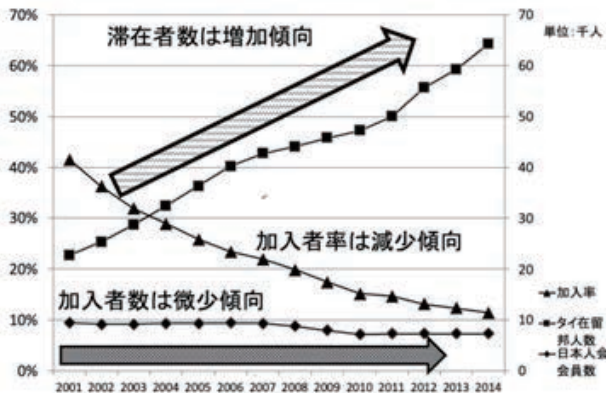
研究の背景および目的

近代化政策を押し進める発展途上国では、政府主導による地域開発が実施される一方で、それらの開発を原因とする環境破壊や生活環境の破壊といった先住民族・少数民族への権利侵害が多々生じています。本研究では伝統文化に基づいた紛争処理手段を持つ少数民族が近代国家の中で生活するにあたり自らの法規範と国内法との適合の様態について研究を行っています。また近年はタイに形成された日本人コミュニティのあり方や日本国内における人権問題についても研究を進めています。



■ 主な研究内容

近年の研究テーマ 海外邦人社会の変化について



これまで海外邦人社会では、非常事態発生時や長期滞在者の生活困窮化について各国日本人会がセーフティネットの役割を果たしてきた。しかし日本人会の加入率は低下の一途を辿っており、かつてほどの力を有していない。近年の研究では、日本人会に代わるものとして東南アジア各国で発行されている日本語フリーペーパーの役割に注目し、各国の邦人サークル活動などの自発的なつながりによる在留邦人コミュニティの形成を示した。ポストコロナ時代における在留邦人ネットワークの実情を解明しようとしている。

期待される効果・応用分野

SGDs視点から見た少数民族の人権問題／東南アジアを中心とした海外で生活する困窮日本人の支援／日本国内における政治的弱者（開発地域住民・女性・子ども・公害発生地域）のサポート／日本国憲法の改憲問題

■ 共同研究・特許など

吉井千周(2004)「変容する山地民の紛争処理—モン族の離婚紛争を事例として」アジア女性交流・研究フォーラム『アジア女性研究』第13号、76-83頁

吉井千周(2016)「固有法の適応と変容：在米モンコミュニティの誘拐婚を事例として」『アジア法研究2015』, Vol.9, No.1, pp. 1-18

富山大学研究者プロフィールPure URL : <https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/>



研究テーマ SDGsを指向した新しい触媒の開発と合成プロセス研究

所属 理学部

講師 横山 初

<https://researchmap.jp/read0047840>



研究分野	有機化学、サステナビリティ学
キーワード	SDGs、有機触媒、金触媒、パラジウム触媒、触媒プロセス開発、

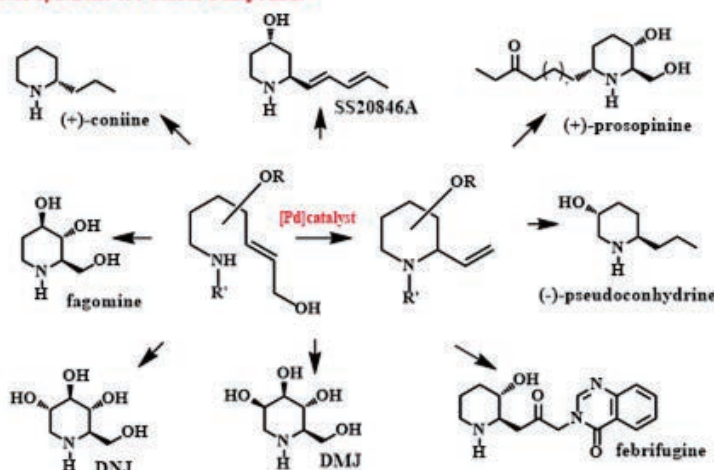
研究室URL http://www.sci.u-toyama.ac.jp/study/research/04_yokoyama.html



研究の背景および目的

SDGsの達成のためには、資源の効率的利用や脱炭素戦略を指向した触媒や合成プロセスの開発が望まれている。私たちはそのような合成手法として、金触媒の反応に着目している。金触媒はターンオーバー数が大きく、触媒量の削減につながるを見出した。今後は、金触媒、さらには有機触媒など、新しいポテンシャルを持つ触媒と合成法を開発していきたい。

■ 主な研究内容 Total Synthesis of Natural Compounds



期待される効果・応用分野

図には、これまで当研究室で、全合成を達成した天然物群を示しました。均一系遷移金属触媒は中心金属種や配位子、溶媒等を変えることにより多彩な反応ポテンシャルを有している。これまで私たちはパラジウム触媒を中心に検討してきた。近年は、金触媒に興味を有している。従来、金触媒は π 軌道に配位することから、アセチレン誘導体を基質とした反応が数多く報告されてきた。しかし、同じ π 軌道を有するアルケン誘導体を基質とした反応は未開拓であった。そのうえでAu(I)触媒による付加環化反応の立体選択性や天然物の全合成を検討している。さらにSDGs対応型として新規な有機触媒を検討している。

■ 共同研究・特許など

これまで、産学連携として、各種の取り組みを実施してきました。今後とも産学連携に取り組むと考えております。<実績> (1) 製造プロセスの改善・改良に関する相談、(2) 合成サンプル品供与、(3) 有機化合物の分析、等、まずは学術研究・産学連携本部までご相談ください。

